

「〈考え、表現し、発信する力〉を培うライティング／キャリア支援」取組紹介

中澤 務 氏（関西大学 文学部教授）

高橋 裕子 氏（津田塾大学 学芸学部教授）

○高橋 皆さん、こんにちは。どうぞよろしく願います。

大学間連携共同教育推進事業というこの事業についてですが、今年度の教育G Pは連携のみの申請でということでした。これはおそらく教育G P関連では初めてのやり方だと思います。連携・共同を推進することで、より一層大きな効果を上げることが文部科学省やその他からも期待されています。多様性の中からこそイノベーションを起こせるということは、特に理系の分野で繰り返し言われていることでもあります。こういったG Pの分野でも、例えば津田塾大学は女子大学、関西大学は共学—伝統的には男子学生が多かった—ですが、これまで背景が全く異なる大学が連携・共同することで新たな価値を生み出し得るのではないかと考えております。

本取組の背景には、現在課題が山積し大変難しい状況に置かれている日本社会で成長している次世代の若者たちが、21世紀を一体どのようにして生き抜いていけるのか、そしてそれをどのようにして抜本的にサポートしていくべきかというポイントがあります。この予測困難な時代である21世紀を次世代の若者たちが生き抜いていくには、その力の基盤として、コミュニケーション力が不可欠です。そして、変化が激しいからこそ生涯学び続ける姿勢を大学時代の4年間でしっかりと涵養することが切に求められているということだと考えています。

それで、私たちは、〈考え、表現し、発信する力〉を本取組の根幹に据えたわけです。コミュニケーション力の基盤となるのは「書く力」であるということに今回も着目しました。「書く力」がコミュニケーション力の中でもとりわけ「考える力」の基礎になっていると捉え、2つの大学の今までのリソー

スを合わせることで、どのようにして新しい要素を生み出し得るのかと、長い時間をかけて話し合い、この取組に至りました。

「ライティング／キャリア支援」ということですが、例えば初年次教育から卒論に至るまでの軸になるアカデミック・スキルとしてライティングを据えて、ライティングとキャリア支援を架橋する、つまり二つの軸に橋をかけながら総合的な学生支援というものを視野に入れつつ、その中で「書く力」を培っていくということを考えたわけです。

今なぜライティングセンターなのか、ということについてですが、私自身は、先程ご紹介がありましたとおり、アメリカ研究が専門です。アメリカ社会の状況について現状を把握しながら歴史的なアプローチで女性の高等教育について研究する機会が多いのですが、米国の大学では、学生支援の一環として、かなり早くからどのような大学にもライティングセンターが設置され一般化してきているという状況を認識しておりました。それに対して、日本では、ライティングのサポートが必要ということが、高校までの学習が不十分で「補習」が必要といった否定的な視点で捉えられ、新しい時代に則した支援体制が整備されないままに置かれているという状況があると思います。これを私たちは何とか変化させていきたいと、本取組で提案しました。

関西大学では「卒論ラボ」、津田塾大学では「ライティングセンター」を既に設置していたわけですが、ライティングセンターあるいは卒論ラボ、今はライティングラボと関西大学では呼ばれるようになりましたが、これをさらに進化させる形で大学教育の質的転換を図ってライティングセンターの重要性を広く全国にアピールして普及させていくことを目標にしています。これについて細かいことは資料にありますので、ここでは読み上げません。

そうするためにも、社会の声を吸収すべく、ステークホルダーを持つということが今回のG Pの大きな特色の一つです。大学の中だけで孤立しないで、

社会の声をきちんと聞きながらプロジェクトを進めるようにというのが今年度の本事業の方針です。

社会の声を吸収するために、企業ばかりでなく、今日お話いただくライティングセンターの学会、あるいは教育委員会や国立女性教育会館などの公的な機関にもステークホルダーになっていただき、次世代の若者たちにどのような力が必要なのか、そしてどのような大学教育が求められているのかといったことなどについてご協力を仰ぎながらプロジェクトを推進してまいります。

ここまでが前半部分で、その次は中澤先生からご報告いただきます。

○中澤 それでは、次に私から、今回の取り組みについて紹介させていただきます。

本取り組みは、5つの柱からなります。これらを有機的につなげることで効果的な支援を目指してまいります。

5つの柱について具体的に説明いたします。

まず、ライティングセンターの充実ということですが、

今回の理念であり、まずライティング／キャリア支援、これにマッチした新しい支援体制、これを支援内容の拡充あるいは啓発行事の実施などを通して実現してまいります。また、両大学のライティングセンターを結び、さまざまな連携的な取り組みを実施してまいります。

2番目の取り組みとして、eポートフォリオシステムを開発いたします。

このeポートフォリオシステムは、これまでにない新しいWEBシステムということで、画面にあ

りますように、TECフォリオという仮の名称を考えておりますが、これは考え、表現し、発信するという3つの重要な段階を効果的にサポートしてくれるようなシステムということになります。これを開発し、効果的に活用してまいります。

3番目として、評価指標の確立を行います。

日本では、まだこの評価指標と

いうものが十分に確立されておりません。評価指標を確立し、このライティング／キャリア支援に活用してまいります。

4番目といたしまして、カリキュラムとの連動を積極的に行います。

このような取り組みにおきましては、大学におけるカリキュラムと有機的に連携させるということが非常に大切になります。大学でのさまざまな授業カリキュラムとライティング支援、これを連動させてまいります。

最後、5番目の取り組みですが、社会との連携を積極的に進めるといことです。

ご覧のような形で、ステークホルダ

取組② eポートフォリオシステムの開発

- TECfolio(仮): Think, Express, Convey
- 三段階でライティングの成果を保存
- キャリアのためのポートフォリオ

The diagram illustrates the TECfolio system's three-stage process. It starts with 'Think' (Micro), where students reflect on their writing. This is followed by 'Express' (Middle), where they articulate their thoughts. Finally, 'Convey' (Macro), where they share their work. The system is designed to support these stages effectively.

取組③ 評価指標の確立

- ライティング支援に評価指標(ルーブリック)を作成し活用
- ライティング指導
 - 授業での評価基準
 - 学生の自己評価
- ライティング評価指標
- 「考え、表現し、発信する力」評価指標
- 「客観的評価指標」と「自己評価指標」

取組の全体像

- 取組の五つの柱
 - ① ライティングセンターの充実
 - ② eポートフォリオの開発
 - ③ 評価指標の確立
 - ④ カリキュラムとの連動
 - ⑤ 社会との連携
- 有機的につながる五つの柱

取組① ライティングセンターの充実

- ライティング／キャリア支援に最適な支援体制整備
 - 支援内容の拡充
 - あらゆる文筆作成への対応
 - キャリア支援を視野に
 - 啓発行事
 - 「書くということと私」
 - 「女性のリーダーシップから学ぶ」
 - 「文筆力をみがく講演会」
- 両大学センターの有機的連携
 - 遠隔連携システムの活用

取組④ カリキュラムとの連動

- 授業連携の重要性
- ライティングの授業
 - 「文章力をみがく」(関西大学)
 - 「日本語ライティング」(津田塾大学)
- 初年次教育との連携
- アクティブ・ラーニングによる学生参加型授業
 - 「スタディスキルゼミ」(関西大学)

取組⑤ 社会との連携

- 高大連携プログラムによるセミナー・講演会
- エッセイ・コンテスト
- ステークホルダーとの連携
 - The Writing Centers Association of Japan
 - 国立女性教育会館
 - 伊丹市教育委員会
 - 朝日新聞社など

シンポジウム議事録

シンポジウム「ライティングセンター 日本の現状と課題」

平成 25 年 3 月 16 日（土）13：00～17：30

一とも積極的に連携しまして、多様な高大連携、それからさまざまな社会的な連携というものを図ってまいります。

実施体制と計画については、ご覧のとおりです。

それでは、以上で本取り組みの紹介を、簡単ですが終了させていただきます。